

2024・2025年度NIE実践報告

上野原市立秋山中学校

1. 実践の概要

本校では、学校教育目標「明るく さわやか 賢く 元気」のもと教育実践を行っている。

校内研究において『確かな学力を獲得させるための指導・支援のあり方』を研究主題とし、教育における今日的課題、特に「主体的に学習に取り組む態度」の育成、地域との協働に焦点を当て、その課題に関する創意工夫や環境整備を行うことで、生徒の確かな学力の獲得や支援につげている。

「確かな学力」は、変化の激しいこれからの社会を生きる子どもたちに求められる「生きる力」の一つとして位置づけられ、それは特に「知識・技能に加え、学ぶ意欲や、自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力など」とされる。よりよく生きていくためには、生きて働く知識・技能を習得し、生涯にわたって主体的に学び続け、社会に還元していく態度を育成することが求められている。

本校では、広く社会で働く「確かな学力」を獲得させることをめざし、基礎学力の定着や言語活動の充実を図るため、毎朝のステップアップタイムでは朝学習や朝読書に取り組んでいる。全校スピーチ集会は本校の伝統と言える行事であり、表現力の向上をねらいとした実践でもある。地域の特色や小規模校の利点を生かした教育を、総合学習「あきやまタイム」と題して、全校生徒を縦割りグループに編成し、歴史・文化や特産品を生かした地域の魅力を発信する活動を行い、大きな成果を上げている。実地調査や地域の方から直接話を伺う機会を設け、生徒や職員の視野を広げる機会としている。

研究の方向性としては、まずは全体で「主体的に学習に取り組む態度」を育成する手段として、単元テストへの取り組み方法を研究した。具体的には、生徒一人ひとりに合ったテストに向けての計画の立て方を考え、テスト結果を受けて、生徒本人の希望で再テストが受けられる仕組み作りを行った。再テストを行うことで、生徒の実力を伸ばすことが可能になり、モチベーションが上げ、「生徒に委ねる授業づくり」として授業改善につながった。一斉授業で基礎基本をおさえ、その後生徒に委ねる授業にするために動機づけを行った。今後は、単元内に一斉授業と委ねる授業を組み合わせた「学びの地図」をデザインできればと考えている。そして、さらに「あきやまタイムの充実」、地域・保護者との連携を通して、これまで以上に地域と共同して、視野を広げ、学びの意欲向上を図っていきたい。

本校は2年間のNIE実践校の指定を受け、生活の中に「新聞」を活用した教育活動を取り入れ、自らの学習を振り返り、意味付け、価値付けることで「知識」の定着につながった。単元や授業の終末に振り返りを行う際の言語活動の充実につながった。

2. NIE実践前の実態と課題

本校は、2024・2025年度のNIE実践校の指定を受け2年計画でNIE実践を推進した。NIE実践前に生徒へ新聞についてのアンケートを行った結果は以下の通りである。

【1年目4月（2024年）事前アンケート】

Q1. 定期的に新聞を読んでいますか。

はい14.3% いいえ85.7%

はいの人どこで読んでいますか → 家庭2人 教室2人

Q2. ニュースの情報をどのような方法で入手していますか。あてはまるものすべてに○

新聞7.4% テレビ92.9% インターネット（LINEやSNSなど）89.3%

NIE 「新聞」についてのアンケート

生徒名 _____

1. 定期的に新聞を読んでいますか、どちらが◯をつけて下さい。

はい、いいえ

「はい」の人は、どこで読んでいますか

家庭・教室・両方の図書館・別の所 - その他

2. ニュースの情報源をどのような方法で入手していますか、あてはまるものすべてに◯をつけて下さい。

新聞・テレビ・インターネット・その他

3. 新聞についてどのようなイメージを持っていますか

※写真、画いたイラストを添付して下さい

Q3. 新聞についてどのようなイメージをもっていますか。(文章でも、思いついたワードでも)

<1年生>

- ・欲しい情報がすぐ手に入る ・白黒ではなく、写真に色をつけて欲しい
- ・モノクロ ・明朝体のフォントで書いてある
- ・文字がつめつめで少し読むのに抵抗がある
- ・字が多すぎて読みづらい ・白黒で昔のイメージ
- ・字がたくさん並んでいて目が痛くなる
- ・字が多いから読みたくない ・カラーがない
- ・漢字がいっぱいある ・漢字の勉強になる
- ・テレビよりも情報量が多い ・縦書き
- ・見出しのところは大きく書かれている
- ・情報が届くのが遅い ・字が小さい
- ・慣れていないので読むのに苦労
- ・手にインクがつくのが嫌だ ・漢字が多い



<2年生>

- ・写真があつてとてもよく分かりやすい ・紙
- ・文章がたくさん書いてあつて読むのが大変
- ・記事がたくさんある ・いつでも読める
- ・リサイクルとか他の物に使える
- ・読むのが難しそうなイメージ
- ・面白いNEWSもあつて、子供も楽しめる
- ・自分のペースで読める ・かたいイメージ
- ・読み返しができる ・文字がいっぱいある
- ・ネットよりは信用できる ・文字がたくさん
- ・内容が難しそう ・なんとも思わない
- ・紙 ・文 ・絵 ・匂いがいい
- ・スポーツニュースならよく見る ・新聞よりインターネットの方が楽
- ・とっておくことができるので、自分のペースでニュースを頭に入れることができる
- ・テレビなどよりは伝達が遅い ・文字がたくさんあつて難しそう

NIE とは

NIE (Newspaper in Education = 「エヌ・アイ・イー」と読みます)は、日本語では「**教育に新聞**を」という意味で、学校の授業や家庭での学習で、新聞を教材として活用してもらおうという活動です。

なぜNIEなのか

いま子供たちに求められているのは、地域や社会の中で課題を見つけ、解決のために行動する力を育むことです。膨大な情報が行き交うインターネット社会で、正しい情報を取捨選択し、読み解く情報活用能力も必要です。

新聞は、事件・事故、政治、経済から文化、スポーツまであらゆる分野の情報が網羅され、その一つ一つの記事が複数の目による厳しいチェックを経て世に出ている、信頼性の高いメディアです。

新聞を学校や家庭で活用することで、社会への関心を高め、自分ごととして考えを深めることに、ぜひ新聞を生かしてほしいと思います。

<3年生>

- ・いっぱい字があつて読みにくい ・難しそう
- ・経済や政治関係の話題が多そう
- ・文字が多い ・字が小さい ・頭が良くなる
- ・最近の話題や出来事が書いてありそう
- ・字が多い ・興味深い内容がある
- ・情報が細かくのっている ・読めば楽しい
- ・見出しを読むことが多い ・クロスワード
- ・テレビよりちょっと見づらい
- ・字がたくさんある ・くわしく書いてある
- ・字がたくさんあり、写真が大きめにある。
- ・情報が細かくのっている、くわしく。
- ・文字がたくさんあつて読むのにハードルが高い
- ・たまに株価のやつがあつて、それを見るとよくわからなくなる。 ・文字が多い
- ・文字が多い。色々なことがびっしり書いてあつて読みづらい
- ・今の時代、新聞は若い世代にはあまり売れなそう。



アンケートの結果を見ると、予想した通り多くの生徒は日頃からニュースや時事問題に関心をもってはいるが、ほとんどはテレビやスマートフォンでのSNS等から情報を得ていて、新聞を読まない、苦手意識を持つ生徒が多いことがわかった。以前より、本校に関わる新聞記事を校内に掲示すると、立ち止まって目を向ける生徒は多くいた。本校では、毎日教室に新聞が届く恵まれた環境にあり、朝の会等では担任の話の中で気になるニュースについて話題を出すようにしているので、興味のある生徒は休み時間に新聞を手にとって読んでいた。しかし、学校行事で忙しくなる時期は、開かれることなく新聞が積み上げられていた。

新聞に対するイメージは、「読みにくい」「難しい」と予想されたものから、そもそも「漢字が多い」「字が多い」ことで読みづらさを感じ、「記事の内容が難しい」「映像や画像の方が楽」と感じていることがわかった。本校では、ボランティア委員会が中心となり資源ゴミ回収を行っているが、各家庭や地域から持ち込まれる新聞の量は年々減少し、新聞を購読していない家庭が増えている。教員も、特に若い年代ほど新聞を読んでいないこともわかった。

本校では、新聞を活用した学習活動は、以前から授業や学級活動の中で必要に応じて行われていた。特に国語科や社会科では、以前から新聞を活用していたが、他教科の教員からは授業での新聞活用に苦慮したり、一人一台端末を使いこなす生徒は、分からないことはすぐに検索して情報を得ている。教師側からの資料提供もプリントを用意したり黒板に提示することは少なくなり、classroomや共有フォルダに貼り付けて生徒が必要なときに必要なだけ活用できるようになった。教員側も「授業で使いたい記事を探すことに時間がかかる」「新聞を開くよりも資料集やネットで検索した方が早い」と、教材準備の時間を減らし、かつ生徒がより活用しやすい方法として配信の方法を選択している。NIE指定校を受けた2年間のスタートは、新聞活用の「よさ」について考えるところから始まった。

以上の実態から、学校全体で、[NIEとは何か]「学習活動や様々な活動の中でどのように新聞が利用できるか」を意識して、まず1年目は、新聞を読まない、苦手意識の強い生徒に新聞を読むことを勧めたり、教員に必ず授業や各活動の中で新聞利用を促すのではなく、「新聞をより身近なものにする」ために活字にふれる機会を増やすことを重点とした。

先生方には日頃の授業や活動の中では新聞を活用できる場面を考え無理のない範囲での実践と、教室の目につくスペースに新聞記事を掲示するなど、各担当ごと自分にできることをお願いした。また、1年目は6社の新聞が届く期間を10月から1月の4ヵ月、学園祭の後から高校入試で忙しくなる時までの、集中的にNIEに取り組みやすい時期を設定した。新たに毎日の新聞の置き場や過去の新聞が手に取りやすい棚を設置したり、その近くには興味関心を持ちそうな記事を掲示したりして、NIEの取り組みをクローズアップした。管理職としては、生徒へのNIE推進の前に、先生方の意識改革の必要性も感じ、2年計画でのステップアップを意識した取り組み計画を提示した。



3. 実践の内容

(1) 教員に向けての取り組み

校内研で「NIEとは何か」「なぜNIE活動が必要か」について全職員で確認し、共通理解を図った。「NIEによる教育効果」や昨年度の実践校による「NIEの実践事例」を紹介した。ワークシートはHPからダウンロードできる「さんにもNIEワークシート」や掲示物は様々な工夫の様子、各教科や担当ごとに企画した掲示を紹介した。職員室内にはNIEコーナーを作るスペースが確保できず、職員室出入り口のドアのすぐ横に、職員向けの新聞記事を掲示して、日頃から意識してもらい、興味を持ってもらえるよう「職員室でNIE」掲示コーナーを設置した。



(2) さんスタの閲覧

さんスタは1年目は指定校ということで無料で、2年目は市で予算化して頂き、2年間活用することができた。興味を持った生徒は、日々の一面記事や地域面に目を通すことはもちろん、過去の記事を調べたり、総合学習等での調べ学習に活用したりしていた。教員も、忙しい中でなかなか新聞を読む時間が確保できないが、さんスタであれば、すぐに読むことができ、朝の会等で気になる記事を紹介するきっかけとなっていた。



(3) 全校生徒に向けての取り組み

教室のある2階廊下、朝に届いた新聞を置き、複数社の新聞記事の読み比べができるようにした。今までは、生徒玄関を入ったところや各階の掲示スペースに、本校に関連する記事や読んで欲しい記事などを掲示していたが、過去の新聞も新聞社ごとに廊下の棚に一定期間保管し、いつでも手に取って読めるようにした。反対側の壁には気になる記事を切り抜いて掲示することで、NIEコーナーをさらにアピールする工夫を行った。



6社の新聞の比較ができるように並べておいた。設置当初はなかなか近づく生徒は少なかったが、生徒は足を止め、少しずつ手に取るようになった。

(4)教室の新聞コーナー

図書室や保健室、理科室入り口付近には、教科に関係ある記事や本を展示したりしている。本校の取り組みが紹介された記事や、本校に関係のある方や地域のニュースが紹介された記事は玄関付近に掲示している。

そこで、教室にも、学年ごとの学習に応じた新聞コーナーを設置した。1, 2年生は県内を班行動する校外学習や職場体験学習について、3年生は修学旅行や入試対策コーナーと各学年の取り組みに関係ある記事を掲示し、自然と読みたくなるような工夫を行い、新聞記事を授業内や休み時間に活用できるようにした。

本校では、各学級には毎朝「毎日新聞」が届き、学級新聞



として自由に読むことができる。置き場所や使い方については各学級に任せている。生活をする場に教室に新聞があることは、とても恵まれた環境といえる。これまでも担当が記事を紹介したり、読んで欲しい記事を掲示していたが、この2年間は特に新聞コーナーを継続的に規模を拡大して設置していた。学級ごとの工夫は、生徒はもちろん教員にも大いに刺激となった。

(5)委員会掲示物のコーナー

養護教諭は、新聞記事から保健や健康、担当する給食委員会に関係する食育に関わる記事を探し出し、教室近くの廊下の掲示スペースに掲示している。

通年で保健室前にはテーマ別や季節や行事に合わせて様々な掲示がされていて、とても好評で生徒も毎回楽しみに

している。

NIEを意識して新聞コーナーの近くにも保健・食育コーナーを作ってくれた。写真のように、掲示ポスターと一緒に関連する新聞記事も貼り付けて提示していた。



(6) 1, 2年生合同校外学習 「校外学習の新聞づくり」

①新聞作り

1, 2年生は合同で和石・甲府方面の校外学習を行い、学習のまとめを新聞形式にCanvaで作成する。国語の先生が見本となる新聞を作成して、記事の書き方や見出しの作り方のアドバイスを行った。実際の新聞も見て参考にしながら、新聞の構成や見出しの付け方について考え、見やすい書式や限られたスペースに記事をまとめて書く工夫をして仕上げた。

(7)教科等における取り組み例 <1年目>

【社会】「公民分野」

同じ日の数社の新聞の一面記事を見て比較した。新聞社によって、表現や考え方が違うところに着目して読み比べた。過去の教科書にある原発の新聞記事で、推進派と反対派の記事を読み、新聞によって内容が異なることや、記事から新聞社がどんな考えや立場をとっているのかを考察し、新聞が1社しかなかったらどうなるかなど、意見を出して討論の材料とした。他にも、裁判所の種類を学ぶ場面で裁判記事など具体例を提示することで、理解を深めた。



国際社会、人権、政治経済の学習では、必要な記事をとっておき、アメリカ大統領選挙の行方、アイヌ、芸能人の訴訟問題、身近な時事問題で生徒は興味関心も高く、新聞を読み比べして理解を深めた。担当教員は、公民分野では扱いやすいと感じたとの感想を持った。経済の学習「株式を購入しよう」では、株式欄を活用して値動きの様子を確認した。

【朝学習】本校では朝の会の前に、10分間の朝読書活動を行っている。3年生は、1週間のうち1日を「さんちNIEワークシート」を利用した。新聞の一面記事を読んだり、コラムや「私の意見」欄等を紹介して考え問う場面を設定した。普段はあまり新聞を読まないというアンケート結果から、まずは活字にふれる機会を設けようと、3年生のこの時期に関連した記事や、学習した内容とつながるニュース、県内や地



域の紹介記事など、身近な内容で生徒が興味関心を持ちやすいワークシートをたくさんある中から担当が選び、活用した。ワークシートは写真も掲載されイメージしやすく、読む量も生徒に

としては負担が少ない様子で取り組みやすく、感じたことや考えたことを短時間で記述することができた。時間があれば発表して、様々な見方や考え方を知ることができた。

【理科】毎日の天気図を切り取ってまとめ、パラパラ漫画にする。天気図を利用して高気圧や低気圧など偏西風の影響による気候の変化を読み取った。

本校敷地内の山側急斜面の写真と災害時の記事を利用して季節の変化や土砂崩れ、地質についての学習に活用した。

【英語】読売新聞の毎週月曜日に掲載される英語記事「英語工房」の紹介。英語の記事を読む習慣化に活用。山梨日日新聞の「こびっと」も紹介して活用した。

【国語】報道文の比較に記事を活用。同じ内容についてA社とB社の記事を比べ、その違いを考える学習を行った。記事を読んで内容を読み取り、違いについて考え記述した。自分の考えをを小グループで発表して交流し、様々な考え方があることを知り、理解を深めた。

【朝の会】日直が「今日のニュース」を紹介するコーナーを作る。

ねらい：新聞に親しみ、興味関心を高める。語彙力や読解力、表現力の向上につなげる。

日直の生徒は、朝登校したら友だちと一緒に新聞に目を通し、気になる記事を探した。気になった記事について、感想や考えをまとめ、発表し合うことを通して、個々の表現力を高めることができた。新聞にふれる機会を設けることで、時事問題について知るとともに、その記事に対する自分の考えを言葉で伝えられるようになった。



【朝読書】1年生は、昨年度は秋山小学校でNIE教育を経験し、今年度は引き続き中学校での取り組みを受け、新聞を読むことが習慣化している様子が見られ、朝読書の時間には、本ではなく新聞を読む生徒の姿が見られる。難しい漢字や分からないことがあると、友だちに聞いたり教えてもらうことで交流が深まっていた。



【学活】入試問題に挑戦：山日新聞掲載の「入試実践教室」を活用して、高校入試対策に活用した。

【道徳】アメリカのトランプ大統領の記事をもとに、多様性の後退について考えた。

<2年目> 新聞を活用した実践

○教科：社会（公民） ○実施時期：11月 ○学年：3年

○単元：第3章 私たちの暮らしと民主政治 ○教材名：世論の形成とマスメディア

- 本時のねらい
- ・マスメディアの役割と政治に与える影響について理解する。
 - ・私たちがメディアと接する際に注意すべきことを考察し、表現する。

○授業者が考える観察ポイント

- ・新聞記事の内容を様々な立場から自分たちなりに要約できているか。
- ・メディアから得られるさまざまな情報に対して、どのような点に注意して活用したらよいか、友達の意見を聞いて深められているか。

○流れ（学習活動・指導上の留意点）

<導入5分>

○本時の授業について確認する。

- ・さまざまな新聞を提示し、一面記事にはいろいろな見出しがあることを知る。
- ・新聞やラジオ、テレビなど情報を伝達する媒体をマスメディアということを知る。

◎マスメディアは、私たちの生活にどのような影響を与えるのだろうか？



<展開①25分> 2人一組で活動

○それぞれの新聞を読んで、記事の内容を整理する
(新聞を配布)。

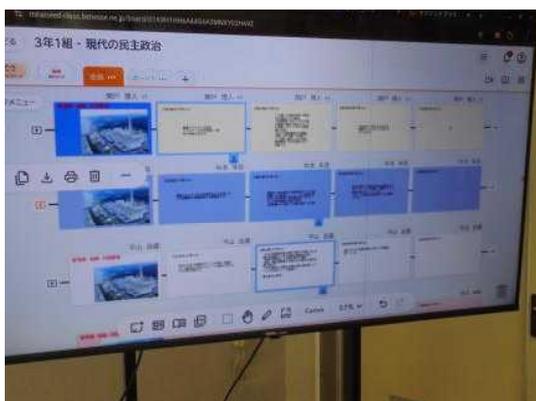
- ・柏崎刈羽原発の記事を読み、「国、東電、自治体、地元住民」の考えを要約してオクリンクに書き込む。
- ・各グループでまとめた内容を発表する。
- ・新聞記事の表現内容を確認し、メディアの政治への影響力を認識する。



<展開②15分>

○さまざまなメディアの報道に対して、あなたはどのような点に気をつければよいと思いますか？

- ・各自考え、PCに整理する。
- ・発表し、意見交換する。
- ・メディアリテラシーの重要性を確認する。



<まとめ5分>

- ・ワークシートで整理する。
- ・主権者の一人として、今後はより興味関心を持ってマスメディアと接していくことを促す。

○教科：国語 ○実施時期：11月 ○学年：3年

○単元：複数の意見を読んで考えよう ○教材名：正解が一つに決まらない課題と向き合う（論説）

○本時のねらい ・環境についての文章を批判的に読み、論理の展開や表現のしかたを評価し合う。

○授業者が考える観察ポイント ・教師⇒生徒にとどまらない複線型のコミュニケーション。

・教師の介入度合いの調整。 ・学習成果の外部発信。

○テーマ「環境問題を解決するために、今、何が必要か」を自分なりに述べてみましょう。

<基本ルール> ・提言に対する評価をもとに述べる（話し合ったことや気づいたこと、考えたこと）

・可能ならさんスタから記事や情報を探して引用し、自分の考えを補強する資料とする。

・「完成させること」＝「自分の意見をつくる」が大事。100点でなくてよいから書く。

○流れ（学習活動・指導上の留意点）

【漢字・語句の確認】

・デジタル教科書のフラッシュカードの活用 ・適宜問い返して確認

【オクリンクプラスのカードに投稿した文章を読み合い、コメントし合う。】

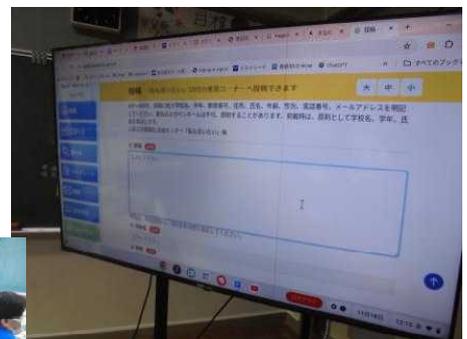
・教師も適宜評価し、生徒の投稿等にも随時反応する（モデリングとフィードバックを同時進行で行う）。

【お互いの文章を評価し合い、新聞に投稿するために論理の展開や表現の仕方を吟味する。】

・デジタル⇒アナログの切り替えを促す。

・これまで活用したドキュメントへのコメント機能などは用いず、音声言語によるコミュニケーションを重視させる。

・自身の端末はノートとして使い、友人からの助言や推敲した文章はその場でタイプして適宜修正させる。



【修正した文章を山梨日日新聞「私も言いたい」へ投稿する。】

・さんスタの投稿フォームを活用

※後日、4名の生徒の投稿が採用され、新聞に掲載された。



4. NIE実践後の実態・成果と課題

(1) 実態

本校の課題として、毎日学級に新聞を置いて読めるようにしていても、なかなか手に取らない。新聞を購読していない家庭が増え、情報はテレビやスマホで得る生徒が大多数。そのため、表面的なことは知っていても、詳しい内容は知らないことが多い。見出しを読む程度。

そこで、2年間でのステップアップを図るため、スタートとなる1年目は

- ①興味・関心を持たせる工夫、記事の紹介（先生から記事を紹介したり、目につくところに掲示する）
- ②活字にふれる、読みやすいものを選んで使う（各教科で活用したら、教員同士で周知。つながりを意識する）
- ③感想を書いたり、考えを発表する（さんにちワークシートなどを積極的に活用）
- ④見る視点（まずは違いや様々な考え方があることを知る。授業にも使えたり、学習内容につながりがあることを意識する。）

を重点的に取り組みを行うこととした。

最初の一年で、じっくりと時間をかけ、新聞が身近にあり（授業での扱い、掲示等）子どもたちに新聞を手にする「きっかけ」が作れたら、NIE推進教育2年間の基礎が培われると考える。

NIEを実践することで、新聞を定期的に読む生徒が2年前と比べ、22ポイント増と大きく変化した。全体としては36%とまだまだ低い割合であるが、「定期的」に新聞を読むようになってきたと考えられる。

また、どこでニュースの情報をどのような方法で入手しているかの質問に対しては、新聞と答える生徒が大幅に増え、テレビと答える生徒は若干減少し、インターネットはついに100%になった。これも時代の流れではないだろうか。本校では、新聞を購読している家庭が少ないが、学校が生活や学習の場で活用できる情報源として、新聞の存在や価値を見いだしていると感じている。

ニュースで言うと、ネットのメリットはリアルタイム性で、速報性が高く事件や事故の情報をすぐに入手でき、多種多様な情報量が特徴で膨大な情報から必要なものを検索でき、視覚化されている。新聞はプロの記者による取材と校閲を経て発信するため信頼性と正確性、詳細な解説記事と深掘りが強みであると言える。ネットで最近話題のフェイクニュースなど、信頼性には注意が必要で、授業の中でもデータ等を扱う場合は、何を元にした情報か確認できるものを根拠として使うよう指導している。深く知りたい、信頼できる情報が欲しいなら新聞（電子版）。今すぐ最新の情報が知りたい時はネットニュースやSNS、意見が偏るのを避けたい時は特定のサイトだけでなく新聞や複数のメディアの報道をチェックするのがいい。

生徒の発言等を見ると、新聞に対するイメージとして、はじめは堅いイメージがあり、文字が多く読むのが大変と思っていたが、しっかりと調べられていて世の中の正しい情報がわかると感じように変容が見られる。このことから、生徒は新聞がインターネットの情報よりも確かであることを理解していることがわかる。

家庭で新聞を読む機会が減り、スマートフォンやタブレットの普及により、インターネットを通じて手軽に閲覧できるサイトやSNS、文字を読まずなくても視覚的に情報が得られるテレビ等からの情報を入手する方法が便利だと考える習慣が定着しているのではないかと思われる。

(2) 成果と課題

【1年目 研究のまとめより】

- ・リアルタイムで話題になっているニュースや身近な情報を道德の授業と関連付けるよう工夫したい。
- ・本校生徒の課題は、スマホ等の所有率の高さや新聞を取っていないことも影響し、活字を読まないことにあると思われる。教師が積極的に新聞記事を紹介し続けたことで、興味関心を持ってきた様子が見られた。NIEの取り組みを通して、教員自身も新聞を読むようになった。
- ・この一年の研究で、教員にも変化が見られた。新聞記事を授業等で積極的に扱うことで、そこから知識を得られることや、さらに考えを持たせることができる。新聞記事の掲示の工夫、秋山中関連の記事だけでなくたくさんの使える素材（各教科、地域の情報、ボランティア、高校入試、保健関係等）があることに気づくなど、意識の変化が生まれた。また、さんスタが無料で使え、NIEコーナーも大変参考になった。NIEに取り組む新たな時間を生み出すのではなく、今ある活動に使えるものを探したり、廊下や教室に掲示した記事がその後の学習につながったり、新しい発見につながった。

【2年目 研究のまとめより】

- ・手の届くところに毎日新聞があることで、新聞にふれる機会が増え、新聞への興味関心が持て、新聞を読むきっかけをつくることができた。様々な記事の掲示物に足を止め、友だちと会話する姿や、一緒に新聞を読んで話をする場面が増えた。ワークシートを活用することで新聞記事を読む習慣や、感じたことを書いたり発表する言語活動で、表現力の育成が図れた。
- ・生徒が読む記事は、生徒がどんなことに興味関心を持っているか、その感想や考えを記述することで、生徒がどんなことを考えているのかが分かり、生徒理解にも役立つ。また、普段学習している政治や選挙、自然環境、地域学習に関わる記事を発見すると、生徒自らが学習と関連づけて新聞を手に取り読むことにもつながった。

(3) 2年間のNIE教育の実践を終えての事後アンケート

【2年目2月(2026年)事後アンケート】

Q1. 定期的に新聞を読んでいますか。

はい36% いいえ64%

はいの人どこで読んでいますか

→ 家庭6人 教室3人 親戚の家1人



Q2. ニュースの情報をどのような方法で入手していますか。あてはまるものすべてに○

新聞36% テレビ86% インターネット(LINEやSNSなど)100%

Q3. 新聞についてどのようなイメージをもっていますか。(文章でも、思いついたワードでも)

<1年生> 昨年、秋山小でNIE教育の1年目であった。

- ・読むのが面倒くさい。 ・文字が多い。
- ・テレビ欄がおもしろい。
- ・テレビは一瞬しか映らないけど、新聞ならゆっくり読める。
- ・いろんな系統のニュースを見れる。
- ・字がたくさんあって、スポーツ、政治、事件などでまとまっている。白黒で色がない。



<2年生>

- ・字が小さい。題がわかりにくい。自分の気になる題が探しにくい。
- ・キャッチコピーなどがおもしろい。 ・嘘のない情報がのっている。
- ・マンガとかある。四コママンガ、こぴっと。番組表がとても便利。
- ・詳しく情報が書かれている。 ・歴史のあるマスメディア。 ・文字がたくさん書いてある。

- ・ SNS などで載っていないことが詳しく載っている。 ・ 広告がたくさんのもっている。
- ・ ネットよりも信頼できる。 ・ 内容が難しい。文が長い。
- ・ 読むと難しい文字があって、難しい。 ・ いろんなジャンルの情報がある。
- ・ 文章がずらずらと並んでいて、1つのことに細かく内容がつまっていて、たくさんのニュースがのっている。 ・ 社会のニュースが多く取り上げられている。
- ・ 偏見だけど、おじいちゃんやおばあちゃんが読んでいるイメージ。

<3年生>

- ・ 小さい字がずら〜っと書いてある ・ 株が見れる ・ 難しい。字が多い。
- ・ 文字がたくさん書いてある。 ・ 難しい言葉が多い。
- ・ 作っている会社によって書かれ方が違っていておもしろい。
- ・ 自分の読みたい記事をすぐ見つけられる。書かれ方が難しい。
- ・ 10代の意見に載ったりして、同じ10代の考え方を知る機会になっている。
- ・ 正しい情報を得る上で必要なもの。 ・ 朝か夜に見る ・ 少し難しそう。
- ・ 長い文章でなかなか読むのが大変だけど、一番頼れるニュースだと思う。
- ・ 読む力も上がるし、ニュースの他にも株とかあるので、社会の勉強にもなると思う。
- ・ 一番大事な記事をすぐ見つけることができ便利。
- ・ 読み込んでみるとおもしろかった。 ・ 信用性が SNS と比べてあると思う。
- ・ 文章が長くてつまらないイメージを持っていたけど、新聞を読み始めてから、いろいろな情報を知ることができて、なかなか便利なものというイメージがついた。
- ・ 信用できるけど、難しい。特に政治についてどれがフェイクでどれが正しいのか分からないから、気になる記事を一目で見つけられるから楽しい。

(4) まとめ

本校では、年3回終業式の後にスピーチ集会を実施している。全校スピーチ集会は、全校生徒の表現力の向上を目指して行われていて、学年によって発表の内容に違いはあるが、第1回の発表は、主に各学年の朝の会や帰りの会、学活等で行ってきたスピーチの延長と位置づけ、これまでの発表を通じて培われた成果を発表の場としている。各学年代表の発表を聞くことを通して多くのことを学び、その後の自分の表現力の向上に生かし、各自が発表の評価もワークシートに記入している。NIEの取り組みを通して、生徒の表現力や発表の内容も変わってきたように感じる。NIEの取り組みは、新聞を使った授業だけでなく、日頃の行事にも生かされているというつながりも実感することができた。

始業式の中で行われた代表生徒の冬休みの反省では、受験を控えた3年生が、テレビのニュースだけでなく新聞を見て面接練習の対策を行ったと発表していた。NIEの実践を通して、新聞が生徒達にとって身近な物になりつつあることがわかる。実践後の教員アンケートでは、普段新聞を読まない若手教員から、すぐに情報を知りたい時にはインターネットを見たり検索するが、正しい情報や詳しく知りたいときには新聞を見ることが選択肢となり、新聞には新聞の良さがあり、記事を授業で扱うことで学習への主体性や思考力、表現力などの力を育てる可能性が大いにあると感じていることがわかった。身近に新聞の良さを体感できるこの取り組みは、生徒だけでなく教員にも重要である。山日新聞に掲載された生徒の福祉について考えをまとめた記事に感銘を受たと、上野原市長さんから学校に電話があった。県ボランティア協会からも連絡があり、「ボランティア活動の推進に取り組む私たちへの叱咤激励である」とのメッセージとともに、本人にインタビューの申し入れと、全校を対象にしたボランティア講座実施の依頼があり、グループワークでさらに多くの考えやアイデアを出すなど、学習が大きく広がり、深めることができた。

これからも新聞記事を積極的に使って教材を考えるなど、生徒に紹介していきたい。2年間の学習で、生徒や教員の新聞への意識改革ができた。しかし、新聞を活用するのは、NIE実践を行ったこの2年間で止まってしまっただけではいけない。NIE実践が終わったこれからが、本当の効果がわかるのではないかな。この実践が、これからの教育活動の様々な場面で行われ、生かされることを期待している。